

## 第 56 回 理 事 会 議 事 録

1. 日 時 令和元年 7 月 2 日 (火) 12 時 15 分～13 時 50 分
2. 場 所 アルカディア市ヶ谷 会議室
3. 出 席 者
- |       |       |        |  |
|-------|-------|--------|--|
| 会 長   | 井上 圭三 |        |  |
| 副 会 長 | 後藤 直正 | 奥山 徹   |  |
| 常務理事  | 楠 文代  | 中村 明弘  |  |
|       | 浜岡 純治 |        |  |
| 理 事   | 林 正弘  | 白幡 晶   |  |
|       | 元木 和幸 | 田中 芳夫  |  |
|       | 浅尾 広良 | 河野 武幸  |  |
|       | 篠塚 和正 | 加留部 善晴 |  |
| 監 事   | 富田 基郎 | 市川 厚   |  |
| 参 与   | 乾 賢一  | 本間 浩   |  |

#### 4. 議事の経過の要領及びその結果

定款の規定により井上会長が議長に就任し、本日の出席理事が 14 名であり、定款に定める定足数を満たしており、本理事会が有効に成立していることが宣言された。

また、議事録署名人として出席理事から、篠塚理事を指名し、事務報告の後、直ちに議案の審議に入った。

##### (1) 前回議事録の確認について

前回議事録（第 55 回理事会：令和元年 6 月 4 日開催）について、全会一致でこれを承認した。

##### (2) 令和元年度教育賞受賞候補者の推薦について

井上会長（教育賞受賞者選考委員会委員長）から、資料 3 に基づき、本日午前中に開催した「教育賞受賞者選考委員会」について

- ① 本年 3 月 31 日付で神戸薬科大学学長を退任した北河修治委員の後任として摂南大学河野武幸薬学部長が新委員として推薦された。
- ② 規程第 4 条第 1 項「協会の議決権を有する者からの推薦」は例年ど

おり大学へ推薦を依頼する。

- ③ 規程第4条第2項「特定の事業等に特に功績があった者については、協会の各種委員会の委員長が推薦できるものとする」に関しては「実務実習検討委員会」、「教育研究問題検討委員会」、「共用試験検討委員会」及び「第三者評価検討委員会」の各委員長に推薦を依頼する。また、理事会及び日本薬学教育学会も推薦の対象とする。

以上の報告があった。

次いで、同賞選考委員会からの提案について協議の結果、これを了承した。

### (3) 学生入学定員の遵守について

井上会長から、平成31年度において、入学定員の1.1倍を超えて学生を受け入れた3大学から文書で提出された超過理由等が、資料4に基づき報告された。今後も全大学が入学定員の遵守に取り組むことを確認した。

### (4) 広報誌「6年制薬学ガイド2021」の刊行について

井上会長（広報誌編集委員会委員長）から、資料5に基づき以下の報告があった。

- ① 広報誌編集委員会委員の変更について、神戸薬科大学北河修治委員及び明治薬科大学伊東明彦委員の後任として、帝京大学小佐野博史委員を新委員とすることとなった。
- ② 対象範囲の検討、大学・高等学校への配布部数、発行時期の早期化等、前回出された意見を踏まえ、編集作業を進めて行きたい。

なお、これまで各大学への別途購入希望数の照会は、(株)エニイクリイティブで行っていたが、今後は協会事務局で実施することとなった。

### (5) 薬学教育協議会について

本間参与（教育協議会代表理事）から、資料6に基づき以下の報告があった。

- ① 就職動向調査のお願いについて

就職動向調査については、これまで日本私立薬科大学協会と薬学教育協議会において、調査内容に若干の違いはあるもののそれぞれで実施していたが、両者間で協議を行った結果、大学の負担の軽

減及び効率化等の観点からも薬学教育協議会の調査に一本化を図ることとし、平成31年3月卒業生及び大学院修了者の調査から実施する。また、私立大学別の情報は、日本私立薬科大学協会へ提供する。

② 薬学教育協議会第58回理事会について

- ・「学術正会員の任期について、1期2年とし、連続する場合は、4期8年を上限とする。また、75歳に達した場合は、退会する。」旨の規則改正を承認した。
- ・「くすりの適正使用協議会」より退会の申し出があったが、団体会員の資格を変更することにより、引き続き連携していくこととなった。

(6) 薬学教育第三者評価について

井上会長（薬学教育評価機構理事長）から、次期役員の改選が行われたことの報告があった。

(7) 薬剤師国家試験問題検討委員会について

中村常務理事（薬剤師国家試験問題検討委員会委員長）から、資料7に基づき第104回薬剤師国家試験問題の検討結果について以下の報告があった。

- ① 7つの全出題領域にわたって、基礎学力を問う問題から思考力・応用力を要する問題までバランスよく出題されていたと評価された。具体的には、グラフ・図・化学構造式などの情報から総合的に判断・考察する力が要求される問題が多く、また、最近の社会情勢を加味した問題や図表から情報を読み取る形式の問題が多く、しっかり理解した上で考えさせる工夫された良問が多かった。
- ② 理論問題における物理・化学・生物、衛生の4連問は、応用問題としてよく考えられた良問として評価されたが、題材は限られるため、今後細かい知識を問うことにならないよう要望があった。4連問以外にも、薬理における化学構造の出題、薬理と病態・薬物治療の連問等、領域間の連携は高く評価された。
- ③ 実践問題について、基礎と臨床（実務）の複合性が高まり、臨床における基礎の重要性が感じられる良問が増えた等、全領域で複合性の改善を評価する意見が集まった。
- ④ 各部会からの報告書には、出題内容の誤り、出題領域の偏りや重複、薬剤師国家試験としての妥当性への疑問、受験生を惑わせる表現、

不自然な状況設定、不十分な条件設定、連問における選択肢の連動等、具体的な問題点と改善に向けた提案がなされた。

また、8月19日（月）に開催予定の医道審議会薬剤師分科会薬剤師国家試験事後評価部会へ中村薬剤師国家試験問題検討委員会委員長及び大嶋同実務部会副委員長（金城学院大学薬学部教授）が出席し、本検討結果の内容を説明する予定である旨の報告があった。

#### （8）全国薬科大学長・薬学部長会議について

後藤副会長（全国薬科大学長・薬学部長会議会長）から、資料8に基づき、6月28日（金）に開催された同会議について報告があった。

議長は、以上をもって議案の全部の審議を終了した旨を述べ、13時50分閉会を宣言した。

以上の議決を明確にするため、本議事録を作成し、議長及び出席理事（指名された議事録署名人）、監事がこれに署名捺印する。

令和元年 7月 26日

一般社団法人 日本私立薬科大学協会

議 長 井 上 圭 三  
(押印済)

出席理事 篠 塚 和 正  
(議事録署名人) (押印済)

出席監事 富 田 基 郎  
(押印済)

出席監事 市 川 厚  
(押印済)